

チーフレジデントより一言



チーフレジデント 岡本将英

こんにちは。2010年度NCGMチーフレジデントの岡本将英です。

当院には多くの研修医、レジデントが在籍しているのがひとつの特徴です。キャラクターも目的意識も多種多様ですが、その若き意欲、若き力がまさにこの病院を動かす大きなパワーとなっており、自分が医療・研究を能動的に実践していることを実感しながら働けることには大きな充実感があります。また本年度は独立法人化、新棟への移転、電子カルテ刷新などの大きな変化に伴い、かねてより研修病院として改善すべき点とされていた給与や設備、電子カルテ機能なども大幅に向上し、より働きやすい環境になっています。

初期研修と後期研修では研修先を選ぶ基準や目的が違いますが、みなさんそれぞれの基準、視点で当センターを見ていただければと思います。

初期研修

私自身、初期研修から当院に在籍していますが、2年間で得た最大のものは、親愛なる仲間たちです。2年間の研修中には、仕事で眠れない日も、自分の知識・技術の足りなさに悩む日も、病棟業務を終えた夜中から医学書を読みあさる日もあります。「ああ、これ以上は体が持たない...」そんな辛い時、ふと横を見るとそこにはもっと辛そうな同期の顔が... (笑)。深夜に呼び出されても、病棟までの廊下に必ずいる同じように半寝顔の同期(すっぴんで気付かないこともあったけど)。本当に同期には助けられ勇気づけられました。そんな辛くも楽しい研修時代を共に過ごした仲間や先輩、後輩は一生の宝です。

もちろん医師としての成長もあります。当センターのレジデント・研修医は皆自分に要求する倫理観や手技、知識の水準が高く、研修中たとえ日々の仕事に忙殺されていても、そんなスタッフに囲まれて研修しているだけで皆2年後には自然と適切な医療に対する姿勢や倫理観が身に付いているように思います。知識や手技はローテーションや担当患者によって個人間で差ができることもありますが、この医療への姿勢や倫理観は医師になって最初の2年間に身につけるべき最も重要なもので、それを概して皆が得ることができるのが当センターの研修の良いところだと思います。

研修医は寮生活ですが、仲間や先輩・後輩が近くにいたのはとても良いことでした。NCGMの仲間とは、共に明日の医療を熱く語るもよし、時に病院の愚痴を言うもよし、新宿の街で騒ぐもよし。非常に充実した研修生活を送れるでしょう。研修修了の日、全国から集まって2年間で見違えるように成長した仲間たちがまたここから全国に散らばって行くと思うと、これほど心強く頼もしいことはないと思うと胸が熱くなったのを覚えています。

後期研修

後期研修の内容は各科によって違いますが、上下スタッフ間の距離が近いのは多くの科に共通のように思います。レジデントは治療や研究に関しての意見・質問を上級医や医長の先生と頻りに交わすことができますし、それを後輩や研修医に還元する機会も多くあります。それは病棟ラウンド中であったりカンファレンスの場であったり(時にバーカウンターであったり)しますが、それだけ上下スタッフ間の接点が多く、話しやすい環境であるということです。

また、先にも書いたとおり当センターには若手医師が非常に多く、その働きは病院を動かす大きな力となっています。もちろんカンファレンス等で上級医を交えた確認や検討がありますが、病棟の医療や研究に於いて、レジデントの自主性に任されている面は多くあります。さらに当センターには医療の他に教育という重要な役目があり、研修医の教育はレジデントの重要な仕事のひとつです。私自身の感想としては、研修医を教育することで自分自身の強みや穴を把握できることもあり、また学習になることも非常に多いので、この「屋根瓦方式」はとても良いものだと考えます。

冒頭に書きましたが、設備も給与も本年度から随分良くなります。また当センターは各診療科間の垣根が低く、他科との連携はスムーズです。具体的な後期研修の内容については各科へ見学に来ていただくのが一番だと思いますが、以上の様なハード面も併せて考慮して頂ければと思います。

今後も当センターが良い研修・教育を行う病院であり続け、全国から多くの若い力が集う場所であることを期待します。皆様どしどし見学にお越しください。

研修医より一言



研修医2年目 丘 慎清 先生

NCGMでの研修の特徴は、救急外来や総合診療科など、初期診療から専門的治療に至るまで幅広い医療を経験できることです。各科に専門のスタッフ及び後期研修レジデントが在籍しており、相談役には困りません。また、研修医も2学年合わせて約90名おり、楽しいだけでなくお互いに良い刺激を受けて研修を行っています。初期研修に求める物は各々違うと思いますが、医師の基礎としての技術・能力、また大切な仲間を得られると思います。



研修医1年目 路 昭暉 先生

明るくて、向上心がありキラキラとして働くNCGM研修医の姿に憧れて、この病院を志望しました。実際研修してみると、慣れないことだらけでハラハラ、時にフラフラの日々。初めての手技に、夜中鳴り響くPHS・・・心が折れそうになる時もあるけど、毎日が充実していて、なぜか楽しいと思える。それはやはり頼りになる指導医の先生や共に悩み、笑い、不安を拭い去ってくれるかけがえのない同期の存在、そしてそんな頼もしい人たちとの美味しいご飯とビールのお蔭。Commonからrare疾患の診療はもちろん、頻繁に開かれる勉強会やサークルに参加したり、国籍、社会背景問わない広い患者層への対応を学ぶなど、多くの発見を通して日々成長を実感できる研修はNCGMならではの醍醐味。嫌がられがちで雑用の多さもフットワークを軽くしてくれるし、4畳半の寮も慣れれば手を伸ばせば必要なものが全て届く快適空間に早変わり。

多くのものに触れ、医師として、一個人として様々なことを考え、幅のある人間に成長できる大切な2年間。新しくなったNCGMでたくさんの扉を開き、共に汗を流しましょう。